

# 神奈川県社保協ニュース

神奈川県社会保障推進協議会【NO. 17-9】2018年2月28日発行

横浜市中区桜木町3-9平和と労働会館6F TEL045-201-3900・FAX045-212-5654



## 2.18 「介護保険のいまと未来を考えるつどい」

157人参加!!

2月18日、横浜で開催された「介護保険のいまと未来を考えるつどい」には、会場いっぱいの157人が参加しました。つどいは、県社保協加盟の団体と労働組合、介護事業者や生協などで行う実行委員会が主催しました。

つどいは、神奈川県医労連の柏木哲哉さんと池上智子さんの司会で開会。福田裕行さん（つどい実行委員長・神奈川県労連議長）が主催者あいさつしました。



### 介護利用者と介護現場、自治体の実態報告から、運動を広げる必要性を実感

第1部はシンポジウムとして、長嶋理恵さん（川崎医療生協介護福祉事業部）をコーディネーターに、介護利用者・事業者・従事者・自治体の報告と討論を行いました。

岸正晴さん（認知症の人と家族の会）は、自ら家族の介護の苦勞を紹介しながら、認知症の方と向き合っている活動を報告。そして、「利用者負担増は深刻。介護保険発足当初の『介護の社会化』の実現に向けて、みなさんと手を携えて運動をすすめたい」と語りました。

遠藤昭さん（遠藤接骨院ヘルパーステーション社長）は、介護報酬の引き下げが続くもとで、賃金を上げられず若い男性が退職してしまうなどの事業者の多くが困っている実態を報告。「楽しく仕事をしないと、利用者も楽しくない。利用者を守ることは、会社と従業員を守ることにつながる」と、国がこれ以上介護保険制度を悪くしないよう運動していくことが必要と強調しました。

クンワル・ラジェスさん（ケアスタッフユニオンこみゆにてい委員長）は、利用者のお世話で苦勞し、低賃金、ひんぱんな夜勤、残業で体を壊すなどあえぎながら頑張っているヘルパーの実状を報告。労働組合を結成した経過にふれながら、介護制度の改善、介護労働者の処遇改善が必要であり、「やりがいのある職場、人として成長できる職場をめざしたい」と決意を述べました。

田中美穂さん（横浜市従社会保障部長・戸塚区高齢者支援担当保健師）は、国の方針の下で苦勞しながら、利用者と家族に寄り添うよう仕事していることを報告。「介護の社会化をめざしたが、家族頼みは変わっていない。介護の利用者と家族を中心に据えた自治体の取り組みにしていきたい。様々な立場の人と手を組んで運動をすすめたい」と表明しました。

「介護保険のいまと未来」を考えるつどい  
—国民の権利としての介護制度の確立めざして—  
第9回介護保険と介護労働を考えるつどい実行委員会 2018.2.18 建設プラザ2Fホール



最後に、**長嶋理恵さん**が、「このシンポジウムは、利用者と家族、介護現場、自治体からの実態と苦勞が語られた。介護制度改善の運動の中心に、当事者が立つことの重要性が明らかになった。市民的な大きな運動に向けて輪を広げましょう」と結びました。

参加者アンケート（79人提出）では、シンポジウムは「良かった」が92.2%を占めました。「それぞれの立場での発言や現状がリアルに語られ、よく実態や課題がわかりました。また、皆さんが頑張っている姿に感動しました」「シンポジストの立場は違っても、介護保険制度を良くしたいと思う思いは十分伝わってきました。こういう取り組みをもう少し広げて多くの人に聞いてもらえるようにしたいですね」「長嶋さんの短時間でのまとめ素晴らしい」などの感想が寄せられています。

## 「介護保険は詐欺だ！」介護制度の改善運動への決意が固められた講演

第2部は、**日下部雅喜さん**（大阪社保協・元堺市介護保険課職員）が、「国民の権利としての介護保険制度の確立をめざして」の題名で講演しました。

介護保険制度のしくみと変遷、今年4月からの介護報酬改定の内容を、実態とユーモアをまじえてわかりやすく説明。大阪府大東市では「歩ける人は要介護認定の申請さえ受けさせてもらえない。体操を押し付け、状態が悪化した人も出た。まるで介護保険料詐欺だ」と指摘しました。「国は、公費は増やさない。保険料は引き上げて、給付は削減に走っている。自治体を自立支援、給付抑制に走らせるのではなく、介護保障の立場に立たせることが必要。いまの介護保険制度では財源的・制度的に限界が来ており、公費を増やすしかない」と強調しました。「たたかしくして老後の安心なし」と、運動を強めていく決意を固められる講演でした。



参加者アンケートでは、日下部さんの講演は「良かった」が98.7%を占めました。「介護保険のしくみ、問題点が良くわかりました」「介護保険料を払って、介護サービスを使えない状況になっているのを変えていかないといけないと思います」「とても良かった。もっと時間をとって講義をお聞きしたいです。講師の先生に感謝！感謝！」などの感想が寄せられました。

## 「介護事業者」・「労働者」・「利用者と家族」が手を携えた運動の前進へ！！

その後、フロアーから7人の方から発言があり、アピールを採択し、**工藤秀雄さん**（つどい実行委員・こみゆにてい代表取締役・介護福祉士・ケアマネ）の閉会あいさつで終了しました。

つどいの内容と運営について、参加者の94.7%が「良かった」と答えました。「年々充実したつどいになっているようです。自分も身の回りの人ももっと参加して欲しい。来年も楽しみにしています」「実際の活動と講演『理論と実際』の構成された集いでした」「いろいろな人との共同の取り組みの必要性を感じました」「介護問題で困っている事の声は非常に強いものがあると思います。運動によっては大きな全国的運動に火がつくのではないのでしょうか」などの感想が寄せられました。ただし、時間がタイトだったため、「もっと話を聞きたかった」という声も寄せられています。

つどいには、介護事業者・管理者19人、介護労働者17人、介護利用者・家族4人、介護関連5人と介護関係者で45人、自治体関係者で8人、県・市町村議会の議員16人の方が参加しました。

「笑顔」と「希望」が見える介護制度にしていくためには、利用者と家族、事業者、労働者、自治体が共に手を携えた運動が必要です。そうした運動への足がかりとなるつどいでした。

## 介護署名 17 万筆提出！！ 2.6 介護署名国会提出行動

2月6日、介護署名提出院内集会在衆議院議員会館内で行われ、全国から101人、神奈川から民医連4人、建設労連1人、県社保協1人の6人が参加しました。主催は、中央社保協と全日本民医連、全労連の三者。集会では、日本共産党の高橋千鶴子衆議院議員と倉林明子参議院議員に、17万1140人分の署名を手渡しました。神奈川からは、建設労連、民医連、介護事業所からの1万2千筆を提出しました。集会に先立ち、全日本民医連の林泰則事務局次長による「どうなる介護？—2018年度報酬改定—」のミニ学習会を行い、各地・各組織から発言し、神奈川からは民医連の畑野さんと県社保協の根本が発言しました。集会後には衆参の厚労委員と地元国会議員を中心に議員要請を行いました。今後の行動提起では、介護署名に通常国会中の5月末まで取り組むこと、各職場・地域で2018年介護報酬改定の内容と問題点を学習すること、5月の介護月間の成功に向けた取り組みを呼びかけました。



## 「広げよう子ども医療費助成」国会内集會に170人参加

2月7日、「さらに広げよう子ども医療費助成制度」院内集会（主催・子ども医療費無料制度を国に求める全国ネットワーク）が開催され、全国から170人が参加し、1万6千筆の署名を8人の紹介議員に託しました。神奈川からは、新婦人と県社保協から15人が参加し、新婦人から参加した2の方が発言しました。今年4月より、自治体が独自に行う子ども医療費の助成に対し、政府のペナルティー（国民健康保険国庫補助金の削減）が一部廃止され、多くの自治体で対象児の拡大や窓口無料化などが実現しています。子ども医療費助成制度は、全国で前進しており、市町村と都道府県に対して拡充を要請するとともに、国としての制度の確立を求める運動を進めることを確認しました。



### <4.14 かながわ社会保障学校>

- 4月14日(土)13:30~17:00(開場13:00)
- 建設プラザかながわ2Fホール

#### ★講演

「国民の権利としての社会保障制度の拡充を」  
～「格差」と「貧困」をなくすために～

唐鎌直義さん（立命館大学産業社会学部教授）

社会保障制度改悪に抗して、国民の権利としての社会保障確立への運動、そして「格差」と「貧困」をなくす運動への展望を学びあいましょう。 <資料代500円>





## 「老人医療費を無料」を実施し高齢者にやさしい町づくり

日本高齢期運動連絡会は2月1日、老人医療有料化35年～命と健康を守るために何をなすべきかをテーマに「2・1 高齢者中央集会」を国会内で開きました。この集会には神奈川から23人、全体で116人が参加し、社会保障改悪ストップ、老人医療費無料化を復活させるために「高齢者の暮らしの実態を出し合い、地域の実態を掴む」「自治体を変える地域の共同をつくる」「安倍政治ノーの声をあげる」ことなどを意思統一しました。集会では、中央社保協の前沢事務局次長が「2018年医療介護はどうなる 今こそ老人医療無料化のたたかいを活かそう」と講演しました。また、東京・日の出町の折田真知子町会議員から、「後期高齢者の医療無料制度」など同町のすぐれた長寿対策について特別報告をうけました。

東京・日の出町は約17,000人の人口で高齢化率（65歳以上）は約35%です。後期高齢者医療制度が導入された2008年、日の出町長寿化対策として「日本一お年寄りにやさしい町づくり宣言」し、2009年4月から①75歳以上の医療費無料、②人間ドックの受診無料、③お年寄りスポーツ支援などを実施しました。その後も、町民が元気に健康な生活できるよう①通院、買い物などへの外出支援バスの運行、②70歳～74歳の月額医療費2,000円以上を助成、③18歳～69歳の方が癌治療をおこなった時の癌医療費助成など「町民にやさしい町づくり」を進めています。「町民にやさしい町づくり」は次世代育成にも力を入れ、町内の商店等で使える「次世代育成クーポン券」の配布（月1万円）、「次世代育成住宅」の提供、また、「子どもの医療費無料制度」など実施し日の出町の人口の減少にストップをかけています。

折田議員は、「これらの『長寿化対策』は町財政の1%～1.5程度で出来ます」、「税金をどういう視点で使うのか、町民に目線で使うことが大事」と報告しました。参加者は「こういう自治体があるのだ」と衝撃をうけ、「老人医療費無料化の時の運動を再構築しよう」と決意を固めあいました。神奈川県高齢期運動連絡会では、社保協と相談して、東京・日の出町の視察・調査を計画しています。

＜高齢期運動連絡会 事務局長 大河原貞人さんより＞

### ＜3月の主な行動・会議日程＞

- 3月2日（金）県社保協第9回常幹 14:00 建設プラザ3F会議室
- 3月4日（日）3.4 かながわ県民集会 13:30 反町公園  
原発ゼロの未来へー福島とともに 3.4 全国集会 13:00 日比谷野外音楽堂
- 3月7日（水）中央社保協運営委員会 13:00 医療労働会館2F会議室
- 3月8日（木）3.8 国際女性デー神奈川県集会 18:40 神奈川県民センター
- 3月9日（金）県社保協第9回幹事会 14:00 保険医協会
- 3月11日（日）原発ゼロへのカウントダウン in かわさき 13:00 中原平和公園
- 3月12日（月）神奈川生存権裁判口頭弁論 11:30 横浜地裁
- 3月13日（火）重税反対全国統一行動（県内18カ所で実施予定）
- 3月14日（水）建設アスベスト訴訟東京ルート判決 14:00 東京高裁
- 3月17日（土）憲法3000万署名宣伝行動 13:30 桜木町駅前
- 3月18日（日）憲法3000万署名地域宣伝行動 9:30 ユーコープ洋光台店2F コミュニティルーム
- 3月23日（金）消費税廃止県各界連定例宣伝 14:00 伊勢佐木町有隣堂前  
介護のつどい実行委員会 18:00 民医連会議室
- 3月27日（火）県後期高齢者医療広域連合議会 13:30 川崎市総合自治会館
- 3月28日（水）神奈川国会行動 10:00 衆議院第二議員会館多目的会議室
- 4月1日（日）税と社会保障一体改革反対・全県一斉宣伝行動（この日を中心に）